

**金曜  
トピックス**

西川町で、大井沢地区の医療に生涯をささげた女医志田周子(ちかこ)を描く映画製作に向けた活動が、新局面を迎えている。製作母体となる志田周子の生涯を銀幕に甦(よみがえ)らせる会(仮称)の設立へ、会員希望者の募集を開始。賛同を呼び掛けるホームページも新設するなど、映画を通じた町おこし実現へ動きが加速している。

志田は1910(明治43)年、左沢町(現大江町)生まれ。父の転勤を機に旧大井沢村に移住して幼少期を過ごした。現東京女子医科大学を卒業後、無医村だった同村に医師として着任し診療所に勤務。51歳で食道がんで亡くなるまで地域医療に尽力した。村議会議員や婦人会長なども歴任し、歌人としても活躍。59(昭和34)年には保健文化賞を受賞した。

映画化は、大井沢地区の住民や町、県村山総合支庁などで2010年に発足した「やまがたの宝『志田周子』資源活用化実行委員会」(委員長・佐藤耕二大井沢区長)の企画の一つ。志田の功績を広め地域活性化に役立てていこう

西川 志田周子 映画化へ動き加速

と、生誕100年記念イベントなどを実施してきた。昨年からは尾花沢市出身の脚本家阿部美佳さん、俳優岡雅史さん(東京)がプロジェクトに参加し、脚本の内容や実現の

可能性を協議。志田の地域住民に尽くす姿だけでなく、内面を盛り込んだストーリーとする方向性を確認している。今回発足を目指している「甦らせる会」は、民間主導での映画化実現に向けた体制作りと資金集めを目標としたもの。9月から会員の募集を始め、今年10日の設立準備会までに町内外約140人から申し込みがあった。

実行委員会では、地域活性化活動に取り組むNPO法人「元気・まちネット」(東京)の協力で、17日にホームページを開設。映画化に向けた活動の実績や、志田の写真、功績などを紹介し、応援メッセージが書き込める掲示板も設

**製作母体 設立目指す**

**HP開設 全国から賛同募る**



準備会には実行委員や大井沢地区民、医療関係者らが出席。「晩年に病を患ってからも休まず診療を続けた」「雪の中、重病人をそりで病院まで運んだ」など、同者を加えて広がりをもたせる活動の輪。映画製作費は約1億円と見込まれ、資金確保には町内だけでなく県内外からの支援が必要不可欠だ。新たな土俵の上で効果的なPRが展開できるどうか。住民の底力に注目していきたい。

(寒河江支社・上妻大晃)

沢診療所